

米国の学校訪問記

森上公紀（中学英語科教員）

2024年10月1日から9日まで米国のNew York(NY), New Jersey(NJ), Houston(HS)の学校を訪問してきたので、各校について以下に報告する。尚、今回の学校訪問はトルコ人が経営するホライゾン学園が手配してくれたものであるため、トルコ関連の学校を訪問している。

Pioneer academy



NJにある Pioneer academy は、トルコ人により作られたトルコ人のための小さな学校だったが（現在トルコ系の生徒は3割程度のみ）、創立25年にしてBlue ribbon校に米国の文科省から指定された。Blue ribbonは、進学実績に優れた学校に与えられ、全国で40校しかない。授賞式はワシントンで行われる。

Pioneer academy は、80%以上がトップ10の大学に進学している。APの成績も4段階あるランクの中で最高のAPプラチナに選ばれている。Blue ribbonは、進学実績と3年生以上の学力標準検査の結果に基づき授与される競争的な制度であり、日本では同様の制度を見られない。その背景に、このような学力により賞を与えるような制度は、教育の目的が人格教育である日本の学校ではふさわしくないと反対される可能性があることが考えられる。年間学費は35000ドル。

Pioneer academy はk-12（幼稚園から高校まで）の寮生一貫校である。independent schoolであり、国から補助金をもらわないために独自のカリキュラムを実施している。Curiosity(好奇心)、Creativity（創造性）、Compassion（共感）、Commitment（献身）を教育の核として、critical thinking focused and evidence-based pedagogy（批判的思考に焦点をあて、根拠に基づく教授法）に関して、research informed practice（研究情報に基づく実践）を行うことでカリキュラムの質を向上させている。加えて、進路指導専門として4名をフルタイムで採用し、名門大学入学に必須の勉強

以外の活動として、ボランティアや課外活動などについてのアドバイスやそれを入学試験で効果的にアピールする方法などもアドバイスしている。また、受験勉強にはストレスが伴うので、情緒的不安を感じている生徒のカウンセリングも行っている。



進路指導室のドアには左記のようなポジティブなマインドセットが書いてある。

各授業は比較的少人数であり、多くて20名程度。私立であるため、入学試験は存在する。留学生は英語が全くできなくても、学力が高ければ入学できる。英語ができない生徒でも1年間の集中的なESLクラスがあり、英語力が皆無の留学生も1年間経て、問題なく他の生徒と学べるようになる。卒業後は名門大学に進学している例が多数ある。

Paterson Charter School Science and Technology (PCSST)

NJにあるPCSSTは、k-12のチャータースクールである。待機者が1000人いる人気校。公立校なので選抜はできない。定員以上の応募があれば抽選。チャータースクールは、従来の公立学校では改善が期待できない、低学力をはじめとする様々な子どもの教育問題に取り組むため、親や教員、地域団体などが、州や学区の認可（チャーター）を受けて設ける初等中等学校で、公費によって運営。州や学区の法令・規則の適用が免除され、一般の公立学校とは異なる方針・方法による教育の提供も可能。助成金を得ているため、地方自治体からの審査は定期的に入る。

日本でチャータースクールを立ち上げる話が出たことがあるが、立ち消えた。理由のひとつに、誰も手を挙げてやろうとしなかったことがある。チャータースクールやるなら私立をやると。背景に日本の私立は補助金が降り、アメリカは降りないことがあるという説がある。

公立校の中で大変なところをチャータースクールに依頼することもあり、PCSST も犯罪率がNJでもっとも高い地域にあった。その分規律を厳しくしていることを最も強調していた。家庭訪問などをして家庭との関係性を構築することも大切だと言っていた。家族から初めての大学出がでることも多い。所得が低い家庭の生徒が多いため、大学進学のための奨学金や、朝と昼ご飯の無料提供などが充実している。

ところで、PCSST では、ベテラン兵士を労う会が定期的で開催され、その日もやっていた。生徒は軍服を模した制服を着ることになっている。



PCSST は理科と科学を重視するチャータースクールであるため、公立校でありながら、3D プリンターやレーザーカッターなどの設備が設置されていた。

EF Academy



図1 学生寮

ニューヨーク、カリフォルニア、ロンドンに展開する全寮制の私立学校。スイスに本部があり、22の事務所がある。41カ国から生徒が通っている。アメリカの標準カリキュラム、IB、APの中から選んで学べる。日本人の数が比較的多く、全体の15%を占める。対象学年は13-18（中学3年生から高校3年生）。年間学費は78000ドル。授業は少人数クラスで、1クラス平均15名。進路指導は5名おり、カウンセリングも兼ねている。生徒の75%以上が米国の大学に進学するが、英国やカナダの大学への進路指導も行える。部屋は3人部屋。国籍は同じにならないように留意している。映画館のような立派な施設があったが、ジムや体育館は意外に古く、狭かった。生徒の安全確保において充実した仕組みが整っ

ており、門限が定められていたり、ORAHというシステムで生徒の出席は、生徒がキャンパスの内でも外にいても確認できるようになっている。進学実績は、IBのそれが公開されているが、世界平均よりやや低い。

余談だが、たまたま出会った1人の日本人留学生と遭遇したが、その学生はお金がないので、大学は帰国して日本の大学に進学するとのこと。年間1000万円近くの学費がかかるが、その費用に見合うだけの施設や進学実績を有していない。EFのような海

外の私立学校の高額な学費を考えると、日本の学校の費用対効果はかなり高いと感じられた。



図3 語学の授業の教室 カラフルな床と透明な壁が特徴的



図2 防音室 IB 音楽の授業で録音する際に使用することが多い。

Harmony Public School



k-12 のチャータースクール。STEM 教育を中心とした実学教育。在学中に STEM 関連の資格を無料で取得でき、進学や就職につながる。貧困層の家庭の生徒が多いが、ハーモニー校に通うことで子供は貧困の連鎖から抜け出す道をつける。2000 年に開校。最初は 98% が黒人。徐々に拡大して、現在は 60 校ある。現在の生徒数は、44732 人。経済的に貧しい家庭は 67%。第二言語話者は 34%。大学進学者は 85%。大学に進学しない 15% に関して、何かしらのキャリアにつけるように支援している。公立校であるため選抜しない。23 のハーモニー校が Best High Schools in America に選ばれ、テキサスのチャータースクールの中でハーモニー校の進学ランキングは最も高い。

Harmony 校は生徒が卒業する時、将来のためのプランがあり、何をしたいのかが明確にしており、協働の仕方を知り、問題解決能力を有することを目指している。

STEM 教育が特色である。3D プリンター、マイクロビット、ドローンなどの機器が整備され、k から 2 (幼稚園から小学 2 年生) を含めて STEM 教育を一貫して学ぶことができるのが特色。それらの最新機器が整備されている教室で、教員研修や研究が行わ



図4 研究室 最新機器を用いて研究・教員研修・授業を行っている。



図5 3D プリンター

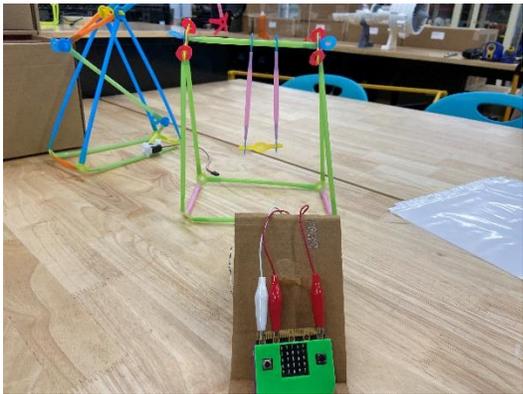


図6 手前の autodesk 社のマイクロビットからなる回路図を動かすことでストローでできたプランコが動くようになっている。

れ、その成果が授業に生かされている。卒業生の 60%が STEM 関連の大学に進学する（全国平均は 20%）。STEM 教育が進んでる学校に与えられる連邦政府の助成金を受け取っている。これは受け取っているのは 16 校しかない。低所得者層の生徒が特に STEM を履修しており、その割合は 80%に上る。卒業までに大学でとるような資格をたくさん取ることができる。STEM

関連の資格をとると、大学の入学につながる。この学校の生徒の 95%が FALSA という州の奨学金に申し込む。STEM 関連の資格は、SACA、BACE、CERTIPORT、auto desk などの会社が支援しており、その会社が提供する資格試験を学校で受験できる。尚且つ費用は学校がもつ。その資格の数は 30 以上。会社は教員研修もしてくれる。

卒業後の支援もしている。例えば、米国では大学 1.2 年生で辞める学生も少なくないが、ハーモニーはそれを防ぐために、卒業生の成績を大学から教えてもらえる仕組みがあり、大学に入ってからでも生徒支援を続けて、好成績を取ることや辞めないように支援している。大学と提携し、2 年間で大学の学位をとれるオンラインコースもある。255 人の卒業生がフルタイムで働いている。在学中から有償インターンとして働ける。大学卒業時には、教員として経験をある程度積んでいる状態で仕事を始められる。

税金で運営しているため、国からの監査が入るが全て A 評価を受け取っている。

トルコ人コミュニティ

テキサス州には、トルコ人の若者を育てることを目的とした財団が存在する。テキサス州とその周辺の州にチャータースクールを50校作り、7万人の生徒、5500人の教師が在籍している。人格教育を重視しており、トルコ人の若者がアメリカにいつつも、トルコ人の価値観を身につけられるように教育している（アメリカ的価値観に染まって欲しくない）。他にも、高校生をアフリカに送り、人道支援活動をさせるような支援をしたり、海外のトルコ人が経営する会社や学校に卒業生を送り、勤務経験をさせたりするなどしている。それにより、先進国での生活から必要なモノが身の回りにあることを当然のように感じる考え方を見直すきっかけにしたり、履歴書の充実の手だてにしたりすることを目的としている。



トルコ人の方々は、トルコ文化センターのような場所や、トルコレストラン、アラブ風カフェなどで定期的に集まり、交流している。写真の方々は皆トルコで生まれているが、遅しくアメリカの地で助け合いながら生きている。